



地域活動・多分野連携を効果的にするボンドの役割

高齢化・人口減少が加速する今こそ、地域の活性化に向け地域全体の資源の結集が必要ではないでしょうか。そのために、私たちは地域内の様々な事業者や個人が有する力をつなぎ合わせるボンドのような存在が重要ではないかと考えています。

これまでの地域活動の実践を振り返り、異業種3名のスピーカーとの対話の中から、その「ボンド」とは何かを探り、皆さんと一緒に地域活動の新たな展開の方向性を考えたいと思います。

参加無料 定員40名

《日時》 **2023年3月13日(月)**
14:00~16:00 (受付 13:30~)

《会場》 まちなかキャンパス長岡5階交流ルーム
〒940-0062

長岡市大手通 2 丁目 6 番地 フェニックス大手イースト

■当日はマスクを着用してご参加下さい。

37.5℃以上の発熱がある場合はご参加をお控え下さい。

PROGRAM

1.『学生の地域活動が地域を変えていく可能性』 14:00

講師: 石川 英樹 <長岡大学 教授>

長岡大学では「地域活性化プログラム」のもとで、学生が各地域の団体・事業者等と連携した地域活動を進めて参りました。それらを、多様な地域組織・事業者・個人とのつながりの視点から振り返ります。

2.『デザインが担える地域のストーリーづくり』 14:20

講師: 大竹 幸輔 <グラフィックデザイナー・プランナー>

デザインとはなにか?「魅力発信!」「観光客を増やそう!」「歴史や伝統を残す」などはよく言われますが、それらの課題を、上手く形にして表現できているでしょうか?本講では、デザインの基本的表現手法の理解と、創造的思考で地域のストーリーづくりを考察します。

3.『ARTと地域活動の相乗効果～廃材アーティストの活動の軌跡』 14:40

講師: 加治 聖哉 <廃材再生師・彫刻家>

加治氏は地域活動を通じた芸術活動により、アーティストとしての地位を確立すると同時に、着実に地域の魅力も発信してこられました。今後の地域活動の新たな展開を考えるヒントとして、これまでの活動実績を紹介していただきます。

～ INTERMISSION 休憩 ～

4.フリートークと来場者を交えたディスカッション 15:10

上記三人の講師によるフリートークに、ご来場者のご意見・ご質問も交えて、一層の地域活性化に向けた地域活動の新展開を考えて参ります。



APPLY ■お申し込み

E-mail/ファクシミリ/電話にてお申し込み下さい。

■お申し込み先/お問い合わせ先

〒940-0071 新潟県長岡市御山町80-8 長岡大学 石川研究室



0258-39-1907 (直通)



0258-33-8792

(注)お電話でご連絡いただいた際に受付不在の場合、留守番電話で応答致します。



h-ishikawa@nagaokauniv.ac.jp

参加申し込み期限3月10日(金)

当日定員に空きがある場合は、
当日の参加も可となります。
お問い合わせください。

地域活動・多分野連携を 効果的にするボンドの役割

MEMBER OF THE PANEL パネリスト紹介



加治 聖哉 (かじ せいや)

1996年生まれ。新潟県村上市出身。
長岡造形大学を卒業後、(有)カイカイキキを経て、長岡市の地域おこし協力隊として栃尾地域に着任。
2020年、栃尾地域にギャラリー白昼堂々を開設。
在任中から現在に至るまで、ワークショップ他さまざまな展示を多数企画実施。
2022年大地の芸術祭招待作家。



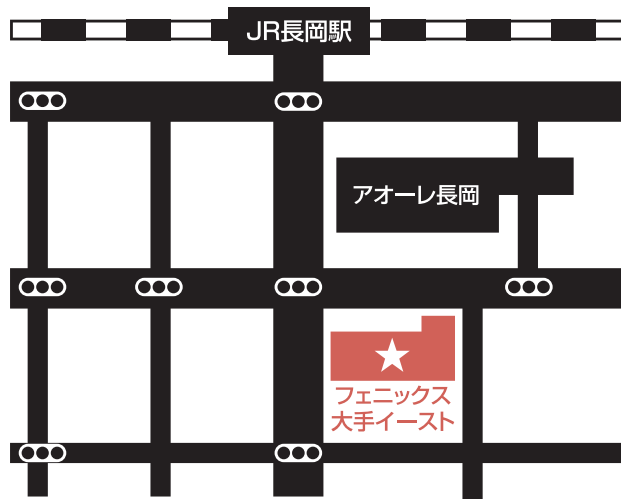
大竹 幸輔 (おおたけ こうすけ)

東京造形大学卒業後、ゲーム会社でインターフェースデザインを担当。
2003年以降、デザイン業と並行し、デザイン系専門学校にて後進の指導にあたる。
2013年に、長岡市にUターン。広告およびWebサイトのデザインとプランニングなどの個人事務所を営んで現在に至る。



石川 英樹 (いしかわ ひでし)

一橋大学経済学部卒業後、三和銀行(現三菱UFJ銀行)入行。1992年(財)国民経済研究協会に入社、産業研究、経済予測などを担当。
長岡大学(2004～2009年)、徳山大学(2009～2017年)を経て、2018年長岡大学教授に就任、現在に至る。著書は『産業空洞化はどこまで進むのか』(日本評論社)など。



☎ **0258-33-8792**

切り取らず、このままFAX送信してください。

FAX 申込書			
氏名		会社名	
住所			
電話番号		FAX	
E-mail			